

令和6年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表					
○ 教育方針	(1) 自らの可能性を信じ、主体的に学び、実践する態度を身につける (2) 多様化する社会の中で柔軟に対応できる課題解決能力を身につける (3) たくましい心身を培い、品性ある言動を身につける (4) コミュニケーション力と協力・協働できる力を身につける (5) 自らの生命や人権を尊重するとともに、利他の心を身につける	《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている) 3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている) 2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている) 1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない) 評価…上段R6年度、中段R5年度、下段R4年度 *1(2)学年経営、2(2)①教科・進路指導はR6年度のみ			
○ 努力目標	(1) 社会に貢献できる力の涵養 (2) 課題解決能力の涵養 (3) たくましい心身、品性ある言動の涵養 (4) 対人関係構築力の涵養 (5) 生命や人権意識の向上 (6) 教職員の働き方改革の推進				
○ 今年度の重点課題	(1) 学習指導の充実 (2) 生徒指導・支援の充実 (3) キャリア教育の充実 (4) 部活動等の充実 (5) 生命の教育の充実 (6) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実 (7) 読書活動の充実 (8) 教職員がやりがいを実感できる働き方改革の推進 (9) 南高の魅力の発信				
評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成果と課題
1 学校運営	全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価				
(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.3 3.3 3.1 3.1 3.2 3.1 2.8 3.0 2.9	重点課題を職員間で共有し、その具現化に向けた組織的な取組に感謝したい。本校の教育方針への理解を幅広く得る機会を工夫し、本校の特性に応じた教育活動をさらに推進したい。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1学年 「笑顔、感謝」をスローガン ①生徒のコミュニケーション力の充実を図る ②困難を乗り越える力の醸成を図る ③生徒個々のキャリアプランの実現を図る 2学年 「自己研鑽」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自律した生活習慣の確立 ③進路指導の充実 3学年 「向き合う」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②生徒指導及び生徒支援の充実 ③自己実現に向けて最後まであきらめない進路指導の充実	①授業・部活動・行事などを通して人間性の陶冶を図る。挨拶と掃除に積極的に取り組ませる。自己肯定感を持った生徒を育てる。 ②安易な遅刻・欠席を防止する。基本的な生活習慣を身につけさせる。マナーを身につけさせ社会性を育てる。 ③家庭学習 2 時間以上の主体的な学習態度を身につけさせる。将来の進路選択に対する視野を広げさせる。進路を主体的に開拓できる生徒を育てる。 ①授業や部活動・学校行事・学校活動を通して自己有用感を高め、人間性の陶冶を図る。 ②健康的な生活に努めさせ、安易な遅刻・欠席を防止する。また、先を見て行動する姿勢を身につけさせ、自律した学習態度の育成に繋げる。 ③家庭学習習慣を定着させ、主体的な学習態度を育む。また、教科の学習やSSH活動を通して将来に対する視野を広げさせ、高い希望実現力を育む。 ①授業や部活動、学校行事、面談等を通して、豊かな感性と思いやりの心を育てる。 ②面談や観察によって生徒理解を深め心身の健康と自己実現に向かう強さを育てる。 ③授業を第一にした学力の向上を図る。また、面談・声かけの充実を図り、生徒の主体的な学習と進路実現を目指す。	2.9 3.0 2.7 3.2 3.0 2.7 3.0 3.0 3.0	全体的に落ち着いた学校生活を送っている。入学当初よりも積極的に学校行事や部活動に取り組む生徒が増えた。一方、提出物の遅れなどなかなか改善しない。特にTeamsを使ったアンケートや報告の入力などで遅れが目立つ。家庭学習への取り組みもまだまだ不十分である。 ①沖縄修学旅行を無事実施することができた。生徒たちは感じるが多かった。 ②ほとんどの生徒が規律を守り落ち着いた生活を送っている。時間の管理を徹底させる指導を継続的に行っていく。 ③家庭学習の定着をはじめ、進路決定のための主体的な学習態度を育む指導をまだまだ必要とする。 ①部活動や体育祭などの学校行事を通して、最高学年としての生徒の自覚や態度が見られた。 ②心身の不調のため、欠席する生徒が一定数見られた。関係の先生方と連携をとりながら、卒業に向けて支援していきたい。 ③1年次より、担任の先生方にはきめ細やかな面談、声かけをしてもらってきたが、共通テストの難化や受験方式の多様化もあり、途中で進路変更を申し出る生徒は多かった。

2 教育活動		教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価					
(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	2.9 3.1 3.1	今年度入学生から33単位となった。生徒・教職員の実情にあった教育課程の検討を続けた。		
(2)学習・進路指導の編成							
①教科・進路指導		国語科	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.5 3.3 3.3	教科会を定期的に実施し、生徒の実態等について情報交換に努めた。数値目標の実現に難しいところがあるが、引き続き生徒の実態に即した指導に注力したい。		
		地歴・公民科	①生徒間での傾聴・対話・議論・発表などを通して、国内外における社会的事象における課題を設定し、その解決策を探究することができる授業デザインづくりに取り組み、生徒の興味関心を引き起こさせる。 ②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題（家庭学習）を提供し、確実に仕上げるまで指導する。 ③共通テスト（新課程）の「手引書（地歴公民科）」を作成し、学年集会などで活用する。	3.2 2.8 3.0		①については、公開授業をもとに教科会などで議論することができた。国内外ともに激動の世情である今、教科書には掲載されていない地球的課題（諸事象）を、積極的に授業での場面設定に取り入れ、生徒の興味関心を引き起こさせる。 ②については、確実に仕上げる領域までには至っていない。また、長期欠席者の40点分（ペーパー以外）の取り扱いについての話し合いを深めて共通理解に努めたい。 ③については一応作成し、1学年の学年集会で配付し説明することができた。しかしながら、10分程度の説明時間であったため、有効活用できたとは言えない。教科外のクラス担任が使えるように整備していきたい。	
			数学科	①「わかる授業」、「考えさせる授業」、「協働的な授業」を展開し授業の質の向上を図る。 ②年間指導計画による計画的な教科指導を行うとともに復習や振り返りを充実させる。 ③コース別授業や習熟度別授業、個別指導などさまざまな生徒に細やかな指導を行う。			3.1 3.0 3.3
			理科	①授業や探究活動において、生徒に主体的に実験・観察に取り組みせ、教科・科目特有の考え方を習得させる。 ②生徒自身に実験・観察結果の処理・考察をさせることにより、探究の技法を身につけさせ、生徒の課題解決力を高める。 ③生徒の探究力が測れる教材の作成に努める。	3.0 3.0 3.0		③については、1学年の自然科学探究において、物理・化学・生物・地学の4領域で生徒の探究力向上が測れるアセスメントテストを作成し、12月に実施した。これを来年度1学年を対象に4月と12月の2回実施し、生徒の探究力向上の指標としたい。
		英語科		①各学年で与える教材を精選し、教科書を最大限に活用する。語彙・文法の基礎固めを土台に、英文読解を授業の中核とし、多読・速読へと発展させる。 ②ALTおよびICTの活用などにより、授業内外で運用・発信の機会を数多く与える。 ③計画的かつ継続的に課題・提案を与え、自律・主体的に学習する態度を育成すべく、効果的な学習支援に努める。	3.2 3.5 3.3	・生徒の実態に合った教科書を選定できるように、教科内で慎重に検討した。 ・ALTやロイロノートの活用により、SSH科学英語も含め、コミュニケーションの機会を頻繁に与えるように工夫している。 ・計画的・継続的に課題等を与えているが、主体的な態度で学習に臨んでいるとはいえない生徒も少なくない。各生徒の学力や意識を的確に把握したい。 ・誰が見てもわかりやすく、どんな生徒でも達成できる到達目標を、各学年で明示する必要がある。	

			保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質や緊張感を高める工夫を行う。	4.0	技能以外の生徒評価の充実を図るため、評価方法についても連携し、質を高めていきたい。
				②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。	4.0	
				③受験（体育系）指導の充実。	4.0	
			芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組み専門的に一定程度以上の能力を持たせる。	3.5	南煌祭で成果を披露することができた。 例年に比べると授業日設定が経ていることから内容の精選が必要。
				②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.5	
			家庭科 学習指導の充実と実生活への活用 に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	3.0	長期休業中の課題を選択できるように工夫した。 学校家庭クラブ活動について意識付けを行った。
				②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。	3.5	
				③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。	3.5	
				④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。	3.0	
				⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4.0	
			情報科 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う力（情報活用能力）を育む。	①情報活用の実践力	3.0	興味・関心を持たせる授業展開、情報技術の活用場面の創出、課題研究との連携等、更なる改善を図るよう努めたい。
				②情報の科学的な理解	3.0	
				③情報社会に参画する態度	3.0	
	②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	生徒会活動や、文化祭・体育祭など諸行事で、生徒が自主的に活動し、リーダーとなる人材を育成する。	3.4 3.4 3.1	執行部は意欲を持って取り組んでくれている。今後はより自由な発想で活動を活性化させることを促したい。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な 発進と事業内容の 充実		①SSH事業の円滑な運営	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める。	2.9 3.1 3.2	第Ⅲ期の研究開発課題に沿って、前年度の課題を踏まえて改編し実施した。南高STEAMの授業実践等、分掌だけでは物理的・人的にも及ばないところが多く、今後一層の他分掌との協働・連携を進めていく。また、職員研修や担当者打合せで目的・目標等共通理解の上、事業の推進を図るよう努めたい。
			②研究開発の推進	②SSH事業3期目の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する。	3.0 3.2 3.1	
			③研究成果の普及活動の充実	③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校への情報発信に努める。	3.1 3.2 3.1	
(4)生徒指導	品位ある南高生の 育成と安全な教育 環境の充実		①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの周知徹底（掲示）	2.7 3.1 3.2	（成果） ・先生方の継続的な生徒への声かけや個人面談の実施などを通して、全体的に落ち着いた状況へと向かっている。特に、登校時の状況やバスマナー、挨拶といった面では、比較的落ち着いた状況にある。 （課題） ・環境美化や掃除に対して、生徒が主体的に取り組む意識と態度の向上をもっと図りたい。 ・携帯の校内使用の違反に対する指導が続いている。使用のルールとマナーの両面から、生徒会や学年と連携し、今後も指導にあたる。 （その他） ・掃除場所の精選を行う。 ・新制服の着用については、問題が出る毎に共通理解を図っていく。 ・生徒指導上の問題に対する早期発見・早期対応ならびに事後
				②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理	2.7 2.7 2.7	
				③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底	2.7 2.8 2.8	
				④・授業開始2分前着席と集会時の5分前集合 ・下校時刻の遵守徹底	2.7 2.8 2.6	
				⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる（生徒指導研修会の実施等） ・携帯端末使用ルールの遵守徹底	2.6 2.9 2.8	
				（全般） ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	2.9 3.1 3.2	

					指導の徹底について、学年や他分掌との連携を密にし、個人や個別事案に応じた指導体制の強化を引き続き図っていききたい。
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	2.9 3.0 2.8 3.1 3.2 3.1	不規則な生活習慣などで体調を崩しやすい生徒が増えている。生徒間の距離が近いいため、インフルエンザが流行すると劇的に増加する傾向がある。
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切にする態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実に努める。	3.5 3.6 3.4 3.5 3.5 3.5	SCの活用により、心身の不調を訴える生徒のストレス軽減が図られている。担任、養護教員との情報共有をより密にし、不適当な生徒失くす取り組みを継続して続けたい。
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員の部活動を生かし、個々の生徒の活動の継続に努める。	部活動の練習環境を充実させるとともに、練習時間と学校下校時間を遵守させ、「学習と部活動を両立」させる。	2.9 3.0 2.9	下校時間の遵守がルーズになっているところがあった。これからも呼びかけていきたい。
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価					
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.2 3.3 3.3 3.2 3.3 3.3	今年度の工事は円滑に進めることができた。厳しい予算の中ではあるが、引き続き安全・安心な施設の維持に努めていきたい。施設・設備の不具合については、すぐに知らせていただいているので助かっている。引き続き、迅速な対応に努めたい。
(2)情報化推進 *情報担当職員	教育活動のＩＴ化	ＩＴ関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う。 ・校内LANの生徒への活用を推進する。 ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	3.1 3.1 3.2 3.0 3.1 3.2	授業が実施されるほとんどの教室で無線LANが利用できるようになった。電子黒板機能付プロジェクトについて、経年使用による不具合が出るものが増加している。
4 開かれた学校 関連機関や団体との連携における教育成果の評価					
(1)保護者との連携	P T A活動の充実	P T A総会の盛会とP T A活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②P T A総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.0 3.1 3.1 2.7 3.0 2.9	大学訪問やうどんの炊き出しなどのPTA主催の行事を行うことができた。PTA総会については、時期や実施方法について検討を進めていく必要がある。
(2)地域や関係機関との連	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	2.9 3.2 2.9	平和学習や崎陽塾、未来デザインスクールなどで外部講師に来ていただいた。より効果的なあり方を引き続き考えたい。
5 生徒の教育成果 校訓の具現化（知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価）					
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に、積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.0 3.1 2.8 2.7 2.9 3.0	十分でないところもあるため、専門委員会と執行部の連携を深め、よりよい活動ができるよう働きかけをしていきたい。
(2)学力の向上	・真理と正義を求め一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起する。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る。 ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す。	2.9 2.9 2.9 3.3 3.1 3.2 3.0 3.2 3.2	授業改善を進めながら、学習規律の確立に努めたい。 理系の生徒の文系への転向が、多かった。 1年・2年の土セミを廃止した。夏休み・冬休みなどの学習支援がどうであったか検証したい。補習は「不足分を補う」目的である点を再確認したい。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成	起立ある行動を目指すことで、人間力の成長だけでなく、けがの防止も図る。	①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	2.9 3.0 3.1 2.9 3.0 3.0	部活動を通じ、生活面の改善を含めて目標達成に向け取り組んでいきたい。生活面では部顧問からの指導がもっと欲しいと感じることがあった。

ほとんどの評価項目で前年度を下回っている状況である。近年、変化の激しい教育環境に対応が追いついていない状況も垣間見えるが、生徒や保護者の評価が前年度と同程度である（項目によっては評価が上昇している）ことを踏まえると、自己評価の低さは、南高をより良くしたいという職員の気持ちの表れであるとも考える。そのためにも、研修機会を確保する等して職員間の対話の時間を多くする必要性も感じているが、研修そのものが、職員の負担（感）を増加させてしまわないよう、教育活動全般の見直しや ICT の有効活用等、改善を図るための時間的なゆとりを確保する必要がある。また、業務のスリム化・効率化を図る際も、生徒のことを含め本当に必要なものは何なのかをしっかりと見極めていかなければならない。各教科の自己評価については概ね 3 以上であり、今後も教科間の連携も含めて南高 STEAM の推進を図っていきたい。